

女性の皆様からの主な提言等と市側の回答要旨

提言等の項目	H29夏開催の「市長と語る会」	
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨
①子育て支援のPR	市の第2子保育料等無料化や、中学3年生までの医療費無料化について、市外の人に話すと「滑川市の子育て支援はとても充実している」と驚かれる。 一方、市民の中にはそれが当たり前と思っている人がいると思うので、子育て世代を中心に、行政が市民を守っているということを市内外にPRしていけば、転入者の増加や当事者の安心感に繋がるのではないかと。	市の子育て施策は一步前に進んでいます。さらに、児童館だけでなく、子ども図書館等においても、子どものための施設ではありませんが、祖父母の方の外出の機会を増やすきっかけにもなっており、高齢者の健康の一助となっていると考えています。また、進学等で県外に転出した女性が故郷に戻ってこないのが全国的な課題となっています。市では、様々な市の魅力のPR等により、この課題に取り組んでいます。
②児童館	児童館は子どもを育む場としてとても良く機能しており、市の自慢であることを子どもたちにも知ってほしい。	
③シャンバーグ	「青年の翼」で姉妹都市のアメリカ・シャンバーグへ行ったことがあるが、シャンバーグの福祉施設は素晴らしい。専門員の配置や建物の構造等により認知症の方が徘徊で屋外に出ていかないような仕組みになっている。	8月には、姉妹都市提携20周年を記念し、副市長を団長に、市派遣団がアメリカ・シャンバーグを訪問します。欧米では、福祉施設等、施設内で運動ができる場所が多くあり、子どもから高齢者まで元気に過ごす施策を行っています。
④病気に負けない身体	率先して、やる気をもって仕事を行うなど、身体を動かしていれば病気に負けない。家に閉じこもってはいけません。	
⑤共助	病気について、1人で抱え込まず、周りの人に伝えて、助け合うことが大切だと考える。	ご提言のとおり、共助は非常に大切なことです。また、50代を過ぎた方におかれましては、これといった自覚症状がなくても、思わぬ重病が潜んでいることがありますので、定期的に健康診断を受けていただきたいと考えています。
⑥休憩スペース	中滑川駅跡地の再開発について、健康そうに見えるが、見た目で見分らない病気を抱えている人がいるので、そういった人が休憩できるスペースを作ってほしい。	今までお聞きしたことの無い貴重なお話ですが、物理的なスペースが必要なことから、ご提言として頂戴します。
⑦クマの被害予測	クマの被害について、多い・少ないの予想はできるのか。	山に実るブナなどの木の実は、奇数年は豊作、偶数年は凶作になるといわれています。今年は奇数年なので、比較的クマの出没は少ないかもしれませんが、あくまで統計上のことなので確約はできません。先日も近隣自治体で男性が襲われケガをされたところですが、山に行く際は鈴やラジオ、クマ撃退スプレーの携行をお願いします。また、自宅敷地内の柿、野菜の収穫など、各家庭での対策についてもご協力願います。